

茨木市立南中学校 グランドデザイン

学校教育目標「一人ひとりが大切にされ、信頼の絆で結ばれたともに学びあう学校」

2023年度重点目標「学校教育目標の具現化と非認知能力の向上」

【自分力】

【自信・自律】

自分を受け入れ、自分の状況や力を把握し、T・P・Oを考えて行動することができる

【つながり力】

【尊重】

仲間の立場や背景を理解し、仲間やグループのことを考えて発言・行動することができる

【学び力】

【目標と振り返り】

目標を設定し、そのためにすべきことを考えて行動、振り返りをし、学んだことや経験を今後に生かすことができる (PDCAサイクル)

学校教育目標達成に向けての基本的な取組み・考え方

豊かな人間性

行動目標: 「しっかりあいさつしよう」

「自分を見つめ、仲間を大切にしよう」

- ・総合的な学習の時間を活用した人権教育の実施
- ・「特別の教科 道徳」を要とした豊かな心、いのちを大切にすする心の涵養
- ・互いに認め合う、安心・安全な集団づくり

安心・安全な学校づくり

行動目標: 「きれいな学校にしよう」

「授業の始め・終わりのあいさつをしっかりしよう」

「『自分』『仲間』『学びあい』を大切に」

- ・学習に適した教室環境の創出・継続
- ・けじめがあり、生徒の積極的な学びのある授業
- ・主体的・対話的で深い学びのある授業

資質・能力の育成

何ができるようになるか

○学校教育の基本

- ・基礎的・基本的な内容を理解することができる。【学び力】
- ・多様な考えを受け入れ、協働的に学び、自分の考えをよりよくすることができる。【つながり力】
- ・汎用的な能力を身につけることができる。【学び力】

何が身についたか

○学習評価を通じた学習指導の改善

- ・学習したことや体験したことと学習活動等とを比べたりつなげたりしている。【自分力】
- ・自分の考えを持ち、学びあうことを通して、自分の考えを広げようとしている。【ゆめ力】
- ・学習で身につけた内容を他の場面で活用できる。

生徒の実態

- ・挨拶・会釈を返すことができる生徒は増えてきたが、進んでするまでには至っていない。
- ・ペアやグループ活動に積極的に参加できる。
- ・学習した内容を他の場面で活用するには至っていない。
- ・失敗を繰り返すことがある。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- 個に応じたきめ細やかな指導
- ・スクールサポーター、介助員、SC、SSW等と連携し、一人ひとりの教育的ニーズを把握し支援する。
- 個別の教育支援計画・指導計画の有効活用

めざす子どもの姿

- ・自ら進んであいさつや会釈ができる。【つながり力】
- ・自分の考えを持ち、協働的に学び合う。【つながり力】
- ・汎用的な能力を身につけることができる。【学び力】
- ・失敗を学びにできる生徒【自分力】

何を学ぶのか

○教育課程の編成

- ① 教育活動を通じて学び合う活動を行う
- ② 言語能力、コミュニケーション能力の育成
- ③ 自分事として捉えることができる人権学習の実施
- ④ 上記活動全般を通じて非認知能力の育成

どのように学ぶのか

○教育課程の実施

- ① 生徒同士が聞き合う・発言できる温かい授業
- ② 自分の考えや気づきの足跡がわかるノートづくり
- ③ 人権課題を知り、当事者から学ぶ人権学習の実施
- ④ あらゆる活動での振り返りの実施

実施するために何が必要か

○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 迅速かつ適切な初期対応及びチーム対応
- 確認・決定事項、指導内容の順守
- ふり返りを大切に、同じ失敗を繰り返さない、失敗を学びに変換できる教職員集団
- いじめ・不登校を生まない学年、学級づくり
- 生徒・保護者と教職員の信頼関係の構築
- 教職員も学ぶことができる出合いを大切にす人権教育の実施
- 人権にかかる知識を身に付け、感性を高める
- 生徒指導主事を核としたSC、SSW、CSW、地域関係機関等との連携
- 家庭、地域との情報共有及び連携・協働
- 学びの連続性を意識した保幼小中連携

安心・安全を守る

- ・教育活動全般における万全の安全対策
- ・互いの違いが認め合える、安心して過ごせる教室
- ・自分と仲間の命を守る生徒の育成 (安全教育・防災教育)

開かれた学校づくり

- ・学校だより、学年・学級通信、HP等による積極的な発信
- ・地域人材・施設の協力を得てすすめる総合学習